

東京キリスト教学園 ボランティアセンター活動報告vol.9



2014/3/5

発行: ボランティアセンター

■いつもお祈り感謝いたします。

震災から3年経過・・・これからも被災者の気持ちに寄りそうボランティアセンターとして、また地域にも視野を広げた活動ができるように。そして何より被災された方々の為にお祈り下さい。

■東仙台教会主催キャンプ

今回も津波で壊滅的な被害を受けた宮城県の野蒜地区にある野蒜小学校の子供たちを対象として2013年12月26日～29日に山形月山ポレポレファームで子どもキャンプが行われました。冬なので雪山でそり滑りを行いました。約40名の子供が参加し、TCUから6名の学生が参加しました。

今回も先生方から感謝の手紙を頂きました。ボランティアセンターが管理していますので、読みたい方はボランティアセンターのメンバーに声をおかけください。



◆証: 武田 遺嗣

東仙台教会主催のこのキャンプは、ノンクリスチャンの子どもが大変多いキャンプです。なぜなら、このキャンプは東北の地で地震と津波の影響によって、遊ぶ場所や家族を奪われた子供達を元気づける目的のキャンプだからです。救いが目的ではないキャンプでも、神様は福音を通して子供達の傷ついた心に確実に癒やしを与えていました。印象に残ったのは、私達チームと一緒に奉仕をしたスタッフ達です。このキャンプに参加する子供達に神様がとても身近な存在となっていることは、彼らの継続的な奉仕の賜物でした。私より年下のスタッフもいましたが、彼らはとても輝いて、大きく見えました。キャンプで出会った子供達と、キャンプで続けて奉仕しているスタッフ達のためにこれからも祈り続けて行きたいと思えます。東北と深く関わらなくなるかもしれないこれから。どれだけ東北のことを思い、祈ることができるかが問われています。これからも東北へ祈りの手を上げ続けたいとおもいます。

■宮古コミュニティーチャーチ

私たちは、今回11月23～27日の4日間、3.11いわて教会ネットワークと、コミュニティーチャーチの牧師先生の指導のもと、計7名で活動させていただきました。今回はシンガポールからのチームと共同で活動しました。活動の内容は、仮設での教会カフェを開き、讃美歌や歌謡曲を歌ったり工作をし、個別訪問、学童での降誕劇やゲームのプログラムなどでした。

◆証: 嶋田 健治

私の出身は九州なので震災にたいしてあまり実感がありませんでした。震災の情報はテレビや新聞、またボランティアに行った友人の話などで情報を得たときの、私はそれで知った気になっていました。今回ボランティアに行き、本当に家や家族を失われたかたと話して震災と自分自身が対面で向き合わされました。現実には自分の目で見ることでやっと分かってくるのだと思われました。

活動の一つとして、私は「集会所で出し物をしますよ」と仮設住宅の一軒一軒を訪ね、色々な人とお話し、様々な反応を見ることができました。友人がいないと語る方、足が悪いので集会所には行けない方など。担当の人に尋ねると集会所には様々な問題があるそうです。また瓦礫の撤収作業が終わり、それからの計画がないこと。原発問題のことで震災の出来事が薄れていっていること。まだまだ問題があります。私自身、津波によって全てが流された荒野を見て、神様が何をお考えになってこのようなことをしたのかと考えますが、なにもわかりません。それでも、神様を信じ仕えてる3.11いわて教会ネットワークのスタッフと交流して、彼らを尊敬するとともに、私も神様をこれからも見上げていきたいと思えます。



■学内活動

- ・1/16(火)報告会
- ・2/6(木)社会福祉協議会の方と地域のボランティアについて会談。

■募金報告

3月5日現在の残金は約20万円です。この資金は学生がボランティアに行く際にサポートとして使われます。

■今後の活動

- ・3/31-4/3に東仙台春の子どもキャンプが実施されます。すでに4人の参加者が与えられています。
- ・4/10(仮日程) 報告会 19:15～ バルナバにて
- ・4/15～18 献金をチャペル後に募ります。

★募集★

東仙台教会主催の子どもキャンプは夏(3週目頃)にもあります。興味のある方は、ボランティアセンターのメンバーに声をおかけください。

詳しくは、豊島集司(080-4797-1195)まで。